

いで兵士の生活が面白い。一面に於て巡査と共にけいづ買ひなる兵士は、また他の方面に於ては妻君のお供をする。悉しく言へば市中を行くと先へ立つて居るの

れて居るのか、殆どその暇はない。このやうな兵士が要塞地の守備として置いてある浦鹽斯徳の軍港！ あゝいかばかり露西亞國の爲に賴母しきかな!!!

が陸軍中尉、又は少尉あたりの妻君で、その後から一人の子を抱いて、一人の子の手を曳いて行く兵士があると、そのまた後から行く兵士は青物の籠や、肉などをぶら下げて行く。即ち陸軍士官の妻君のお供をして

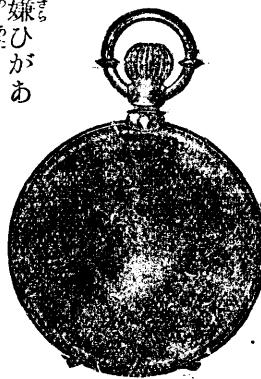
これは理由のある事で、浦鹽の軍隊では、大尉が二百人、中尉が百五十人とか、少尉が百人とかいふやうに、將校の賄によつて兵士が生活して居る。従つて二三の兵士はその將校の家の居候で、彼等兵士に當てがふ給料は二月で四十五錢といふ薄給。それで將校の家に居住して權助もする、立關番もする。また例のそれら主人たる士官の令夫人のお供をして、行く。その餘暇があると例の「どろぼう物」を商ひに出るといふ始末。彼等はかくの如くしてその現役五年を過すので、其他の時間に何時軍事上の習練が授けら



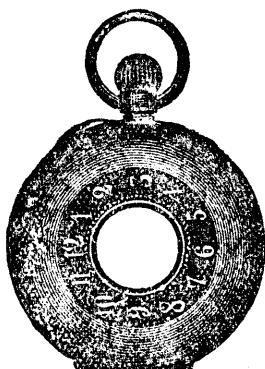
懷中時計と鎖

近藤蕉雨

○流行品と言へば何時でも衣服に女の髪飾り、夫婦の衣類などは、いわゆる夏冬の天賞堂販賣 石清水圖

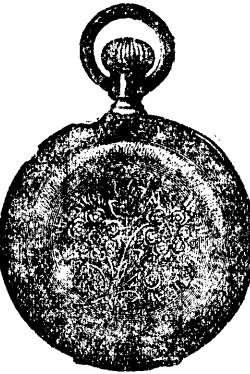


るから何かとおもひながらじをぶらついた結果、不圖思ひ浮んだのは流行の懷中時計である。是ならば今迄新聞にも雑誌にも出たともないし、且又日露戦争の折柄、出征の軍人に取て一番必要品で



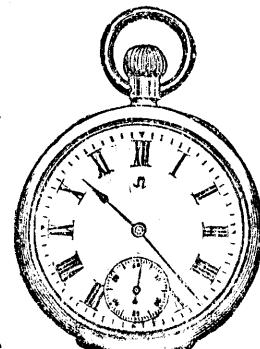
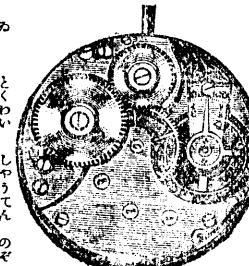
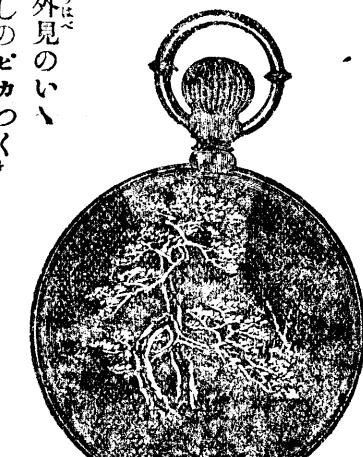
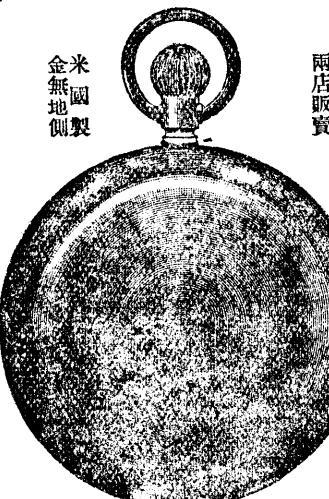
「イニ鞭で打たれは致しません！」
「ナニそんな事がありますものが、目の縁に墨が附いてるから、學校で泣いたに違ひあるまい！」
「……そ……それは泣きましたには違ひないんで、少し位泣きでもしなければ、いつまでぶたれるか知れませんもの……。」

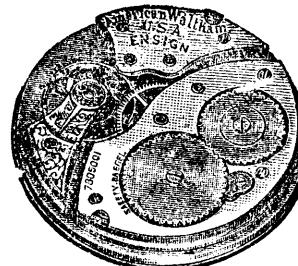
「愛嬌」おつかさんは一と口に馬鹿だと被仰いますが、私が是非妻にと見込んだ點は、萬更馬鹿とも思はれませんわ。」



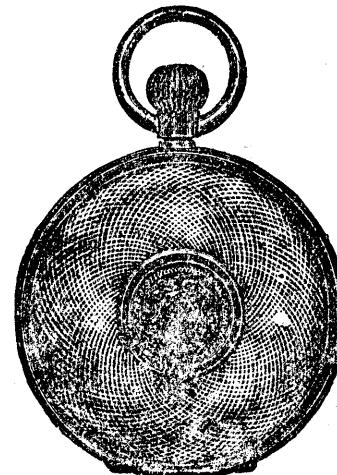
た居たが、支に割て求めに貴居重の時計を外國人から買つても費つても何の役に立ずして居た許りで、然人々が外國輸入の時計を購入して使用したので、式の時計が不用にされ、紳士其當

物變り星移るに連て
時は掛時計、置時計、現今使用して居る
和蘭、瑞西の兩國と
利佛蘭、西等であるに
しきと である ○ 時計は實用品と
して一時吹聴する迄もな
るが、時計の種類
中時計の三通りあ
は家具に屬し、懷
けれど實用の點に

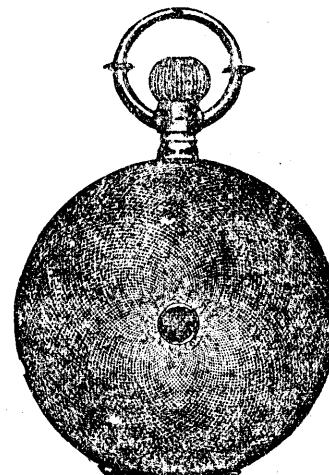




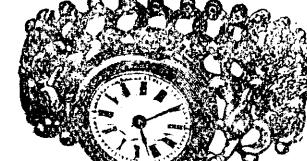
(十二) 同上



(十二) 天賞堂販賣 米國製魚子側



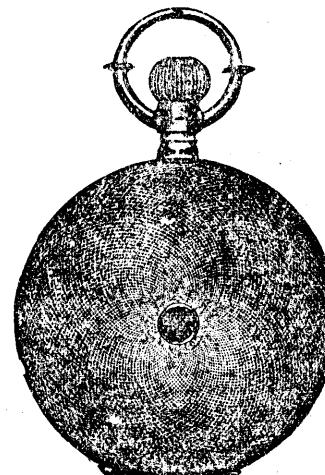
(十五) 天賞堂販賣 瑞西國製總魚子側



(三十) *についての流行を極めとは言ひな
狂はない限用に耐へ、
の悪い客すれば、用
人情手放すのが惜
くなるから、強て
買ふに流行の物も
及ばない

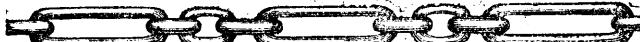


在自縮伸上同 (四十) * 御おんを入れの置の據のい。 ない。



洋行戻りの側を美夫され
魚子なにこ江うかうもと
流行の実を施すがるが
馬數ほどがるが
字とほどが
亞刺ラウア
比亞ビア
數字スウジ
賣行キョウ
つて
とあ
鎖鎖

形繩堂賞天(十二)



形鉗ツ一角掌竇天（一十三）

○市内神田
熊本、福岡、北
置き、尙地方
出張巡回
販賣滞清の如
を設け貴金属
を以て調製す
る時計各種、
同附屬品、服
手廣く廉價に
販賣して有名
である天皇堂
本店は曩に堂
主自身が歐米
各國を巡歷の
際、各造所に就
て實地を
交換をするか



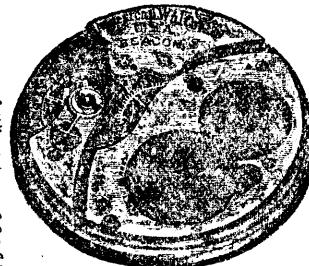
形角切角掌翼天 (三十三)

* 目撃し、最も新興大阪の流行品の中から嗜好に適する物を選び、直輸入して特約し、更に顧客の利便を図る爲宛然としている。然る爲わざなくば原價隨意の如く工場の如くに屋。

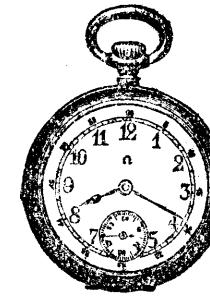


付締繕形輪小入筋堂賞天 (三十二)

長崎・廣島、
臨時出張所を
内を縦覧し得るやう先頭家
屋を改築し、
物品には各
低廉無比の正
札を附てあるが、同店の特
色は購求の時
計に對して、
保存請合證書
を添へ、此年
限中に自然機
關に變異を生
じて使用に堪
へなくなる場
合は、他品と
尙年限中は



右入彫刻側で五六
(十七) 小林服部兩店販賣
米國製器



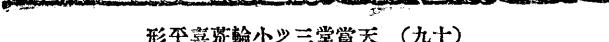
五六圓から四五五十圓位、同金着側は金着位。
(十六) 片硝子算用數字支

* 箕年保證付で十二三形
* から十五六形で、十八
金無双側瑞
西國製で價
三十四五圓
から七八十
圓位同く七
冊五六圓迄
金着側では
十箇年保證
付で十四五
圓から廿四
五圓迄、同
二十箇年保
證付が三十
圓から卅八
製が最も賣口

○金鎖は其の側よりうなづき、角環は其の側よりうなづき、同角切は其の側よりうなづき、長輪小判は其の側よりうなづき、環錠は其の側よりうなづき、丸喜平は其の側よりうなづき、荒喜平は其の側よりうなづき、二重喜平は其の側よりうなづき、平等が最も流行り、十八金は其の側よりうなづき、行し、なら目方七は其の側よりうなづき、八匁付迄は其の側よりうなづき、二匁付迄は其の側よりうなづき、四十圓から又銅割り十八金及び白金交りで目方七八は此刻時計其の二は字支(其三)は此



繫判小輪長堂賞天 (八十)



卷之二

直である。其の
分の一で、其の
して用ゐられ
る。○圖案(づあん)
圓乃至廿二三
圓位迄、同二
立緒縮付目
方三四勿付價
廿二三圓乃至
卅五六圓迄、
同首掛目方六
七勿付價四五
十圓乃至六七
十圓位迄であ
る。

